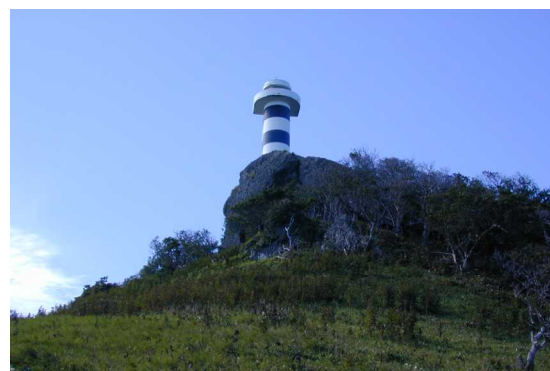


# 知床岬地区合同巡視

～環境省など、6機関で実施～

9月4日（水）に、関係6機関13名により知床岬地区の合同巡視が行われ、知床森林センターからも、西所長と玉川緑化第一係主任の2名が参加しました。

知床岬地区は、貴重な植物群落や各種野生鳥獣の生育地であることから、一帯の自然景観を保護するため、「知床岬地区の利用規制指導に関する申し合わせ」（昭和59年2月）により、レクリエーション目的とした一般観光客などの立ち入りを抑制していますが、地理的なこともあり日常的にその実態を十分承知出来得ないことや、漁業関係者などからは「立入者がかなりいる」との情報もあることから、植生等を含めその実態を調査するため実施しました。



当日は、午前6時45分にウトロ港に集合し、ミーティングの後、チャーターした船（約20トン）に乗り込み、知床岬地区の文吉湾（避難港）を目指しました。小さな船なので、船酔いも懸念されましたが、比較的波が穏やかだったため、全員が元気よく上陸しました。

休憩後、環境省自然保護官から、同省で7月下旬から8月中旬までの15日間に実施した立入調査の概要として、約50グループ・190人の立入があった。立入地点は文吉湾が約6割と圧倒的に多い。立入手段としては、遊漁船が約4割と最も多く、徒歩とプレジ

ャーボートがそれぞれ約2割、シーカヤックが約1割である。立入目的は釣りが約3割と最も多く、観光が約2割であるなどの説明がありました。

その後、自然保護官ほかの案内で、岬灯台（写真上）間を巡視しました。途中、名前やメッセージを書いた木片やたき火の跡があり、立入者がキャンプなどを行っていることが確認されました。また、鹿による食害も見受けられました。

灯台からは遠くに国後島が望め、灯台下の海岸には、網走支庁（国）と根室支庁（国）との『くにざかい国境標』が永年の風雪に耐え立っていました。

一行は予定した知床岬地区でのスケジュールを終え、午後1時に文吉湾を離れ、日程の全てを終了しました。今後の保全管理の対応について検討を要するものと思われます。

## 第23回しれとこ産業まつり

第23回「しれとこ産業まつり」が9月29日（日）にみどり工房しゃりで開催され、朝からの雨で出足が心配されましたが、開会式頃には雨も上がり多くの人出で賑わいました。



当センターは「知床の絵葉書プレゼント」「木工体験」「丸太切り体験」のコーナーを設けました。知床の絵葉書プレゼントでは、知床の風景や動植物をプリントしたハガキを用意したところあっという間になくなるほどの大人気でした。

木工体験では、小枝やドングリ等を使って多くの子供・大人達がそれぞれ自由に工作を楽しんでいました。

丸太切り体験では、昔のことを思い出しながら鋸をひく年配の方や、初めて鋸を握る子供に手ほどきする家族連れ

など多数の参加がありました。センター職員は1日大忙しの状態でしたが、催し物を通じて「知床の森」の理解を深める存在としてアピールすることができました。

## 知床の森から

平成14年10月発行 第80号



北海道森林管理局北見分局 知床森林センター  
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地  
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160  
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



## 知床は今

知床は、もうすっかり秋になりました。カラフトマスやシロザケが川を遡上し、水産加工場や漁船は忙しく稼働しています。

知床連山の羅臼岳に9月25日初冠雪が見られました。紅葉が始まりミズナラや街路樹のナナカマドは実を熟させ色づいています。

知床森林センターでは例年秋に行っているミズナラの堅果結実調査が始まりました。観光地のウトロ地区には観光バスが知床五湖方面に訪れ、引き続き秋の観光客の姿が多数見られます。

エゾシカやキタキツネなどの動物が忙しく活動し、冬に備え体力を付けています。

木々の紅葉はもう少し先ですが、今年は綺麗に色づくでしょうか。澄み渡った秋晴れになると気持ちよく野外で楽しむことができます。





第62回レクリエーションin知床

## 「神秘の羅臼湖と五つの沼巡り」

第62回森林レクリエーション・in知床「神秘の羅臼湖と五つの沼巡り」を、8月27日に行いました。

羅臼湖は周囲3.7km、目の前に知西別岳、後ろを振り返れば天頂山が見える山に囲まれた、閑静な隠れた名所です。羅臼湖へ至る遊歩道沿いには大小5つの沼や湿原が点在し、高山植物を観察することができます。



今回は、神秘の湖・羅臼湖ということから60名もの応募があり、抽選の結果19名の参加となりました。

当日は、バスが出発し現地へ向かうにつれて、晴れていた空に雲がかかりはじめ、現地へ着く頃にはガス模様となりました。

歩道沿いに目立つ、ゴゼンタチバナやイワツツジの赤い実に目をうばわれた参加者からは「可愛い実ですね！」と声があがり、湿原には梅の花に似ているウメバチソウの白い花が咲き、時折足を止めて観察しました。

三の沼では、水を湛えた湖面に、チシマミクリの長い葉が水面に漂い「晴天であれば羅臼岳が三の沼の水面に映り景色の良い沼です」と、インストラクターから説明があり、ガスに包まれ羅臼岳が見れないことを参加者の皆さんは残念がっていました。

それから次々に現れる大小の沼や湿原を巡り、湿原のなりたちや遊歩道沿いによく見られるダケカンバやハイマツの木の特徴について説明しました。

羅臼湖の展望台に着いた時には、ガスの中に羅臼湖が隠れており、今度来る時は晴れた羅臼湖を見てみたいと願いつつ湖を後にしました。

ウトロの町へ近づくにつれ晴れ間が広がり、山の天気は変わりやすいことを実感しました。



第63回レクリエーションin知床

## 「秋の知床登山と紅葉狩り」

第63回森林レクリエーション・in知床『秋の知床登山と紅葉狩り』を9月25日(水)に開催しました。

今回のイベントは、秋の紅葉狩りと紺碧のオホーツク海を眼下に、今なお水蒸気を上げている知床硫黄山新噴火口への登山です。

当日は、朝から雲がたれ込み、現地に向かう際にも途中で雨が降るなどとても心配な状況でしたが、現地は晴れ間が見える登山向きの天気となりました。

今年の硫黄山山麓は紅葉が遅れていて、まだ緑の風景が広がっている中での登山となりましたが、ミズナラ、ダケカンバ、ハイマツ等についてや熊がアリの巣を掘り起こして小さなアリを食べる事、硫黄採掘の歴史、森林浴の効果などについて解説しました。



道の途中では、足元のシラタマノキの可愛い白い実等が参加者の目を和ませていました。

事情により硫黄採掘小屋跡地までに日程が変更となってしまいましたが、山頂に薄く雪が見える硫黄山と振り返れば紺碧のオホーツク海の雄大さに、しばしの登りの辛さも忘れ参加者のみなさんは

眼前に広がるオホーツク海のパンoramaに胸を躍らせているようでした。

